

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年12月19日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104522
法人名	医療法人 サン・レオ会
事業所名	グループホーム ゲンキ館
所在地	鹿児島県鹿児島市上之園町29番地14 (電話) 099-258-7113
自己評価作成日	令和4年10月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和4年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

鹿児島市の中心部に位置し利便性の高い場所であり、小学校や高校に囲まれた閑静な住宅地にある。

人としての尊厳を尊重する、家庭と同じような生活をともに送るという理念に基づいて、懇切丁寧な介護を提供し、寄り添い皆様と明るく落ち着いた日常が過ごせるように日々努力している

認知症の症状の進行した方でも、適切な対応が出来るように研修を行い取り組んでいる

階下の医療機関で機能訓練としてのリハビリ指導を受け、日常の介護に取り入れている。階下の医療機関は人工透析も行っているため、認知症で透析治療が必要な方の入居も可能である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は母体が医療機関であり、同機関の看護師が毎週訪問し健康管理や理学療法士による機能訓練の指導を受け、利用者や家族の安心につながっている。
- ・コロナ禍にあり、利用者のストレス解消や下肢筋力の維持のため、毎日、リハビリ室での歩行や体操、レクリエーションを工夫し、笑える時間を持てるよう支援し、利用者に応じた活動ができるよう努めている。
- ・ホームの窓を開放し近隣小学校の元気な子供達の声を聴いたり、外気に触れたりすることで気分転換を行い元気に暮らしている。
- ・職員は利用者に寄り添い、個々に話せる時間をできるだけ多く持ち、会話が困難な人にはコミュニケーション方法を考えて関わっている。
- ・職員間も仲がよく協力し合い、利用者からもよく話しかけられて信頼関係を深めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「人としての尊厳を尊重する」「家庭と同じような生活をおくる」という理念に基き常に念頭に置き支援している	理念は玄関やリビングルームに掲示し、申し送りや月1回のミーティングで振り返り、理念に基づく実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し夏祭りや運動会などコロナ禍なので施設の窓より見学をしたり、近隣の美・理容店を利用したりして地域の方との交流も行っている	町内会に加入している。コロナ禍の為、ホームの窓から小学校の子供たちの元気な声を聴いたり、夜空に上がる花火も見物している。地域交流は自粛しているが訪問理美容を受けている。地域の方や家族から認知症についての相談を受けている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	街中の地域性もあり、なかなか近隣のつき合いが難しいが民生委員や家族との繋がりを大切にして、認知症の理解を共に深めようと努力している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、民生委員、地域包括支援センターの方々に評価、報告を行い意見や助言を頂く様になっている。近年はコロナ禍なので書面にての開催が多くなっている。	コロナ禍の為、2ヶ月に1回、書面開催し、入居者状況や活動状況等を郵送で報告している。認知症患者のストレスや面会について等、毎回テーマを決めて話し合っている。電話で要望や助言を聞いて運営に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>地域包括支援センターと主に連携を図り、情報交換や相談をしている解らない事等は市の窓口にご相談し、助言を頂き協力関係を築いている。</p>	<p>市担当者とは窓口に出向き書類提出や相談し助言を貰ったりしている。地域包括支援センターとは情報交換や相談したり、運営推進会議録を送付し助言を得る等、連携・協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>入職時や定期的な内部研修を行ったり、法人内の身体拘束廃止委員会などで事例検討会をするなど出来るだけ拘束はしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>マニュアルがあり、入職時や年2回の内部研修を実施したり、法人内の身体拘束廃止委員会で3ヶ月に1回事例検討会・スピーチロック・虐待等、勉強会を実施している。不適切な言葉遣いがある場合は注意し、拘束をしないケアに取り組んでいる。外出したい時は、靴を履き替え職員と一緒に散歩している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないことがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>内部研修や法人内の会議において検討、意見交換などを行い、幅広い認識の下でお互いが注意出来る環境作りに励んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修を行うなどをして基礎的な理解が出来るように努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時や内容などの変更時にはご家族と個別に面談し、十分な理解と納得を得られるように丁寧な説明を行い理解して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者が気軽に思いが話せる様な環境づくりに努めている。家族の面会時や会議などで他職種の方の意見を聞く機会を設け、得た意見などを職員会議で検討し、運営に反映させるようにしている。	利用者からは日常の関わりの中で、家族からは面会時や電話等で意見を聞いている。毎月発行のたよりで利用者の日常の様子を写真や手紙で紹介し、意見や要望等を聴く機会を設け、個々の趣味を活かす活動を取り入れている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングや会議などで提案を取り上げ意見交換を行い改善が必要である事は改善するように努めている。	施設長や管理者は法人全体会議、月1回のミーティング、日々の申し送りやコミュニケーションを図る中で意見や提案を聞き、必要時、個別の面談等でも意見や要望を聞いている。介護用備品の購入等の意見を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員一人一人の希望や条件等に添えるように柔軟に対応している。資格取得希望者に対しても前向きに協力を行っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員一人一人がスキルアップ出来る様に内部研修を定期的に行っている。技術面では経験者や指導者などに相談し指導を受けている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域包括支援センターや他の事業者と情報交換や交流を図り、サービス向上に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の面談時において、本人の思いをくみ取るように傾聴し、ご家族と連携を図り、本人が安心して過ごせるような関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に家族の思いや希望などを傾聴し、話し合いを持って、説明、返答を行い、理解してもらえるように努めている。また、いつでも相談できるような環境づくりにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者に一番に必要であることを互いに理解しあい、いろいろなサービス利用も含め検討して支援に生かすようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としての尊厳を大切にして、出来ることは一緒に行い、お互いに支えあえる関係になれるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にし、家族と連携を図り、本人が安心して過ごせるように互いに協力し合えるような関係づくりを築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍なので面会等は出来ない状態ではあるが馴染みの美容師に来てもらったり、親しい方と電話をするなど関係が途切れないようにしている。	コロナ禍により外出機会も少なく家族とは窓越し面会である。電話での会話、年賀状や暑中見舞いのハガキ送付でコミュニケーションを図ったり、近隣の訪問理美容師に依頼する等、関係が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	月ごとの行事や毎日のレクリエーションなどを行い、一緒に過ごせる時間を作り、コミュニケーションを取れるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話や来訪時など近況を尋ね、関係維持を図り、いつでも気軽に相談出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意思を尊重し、その人らしい生活が出来る様に努めている。意思疎通の困難な方でも思いを汲み取り希望に添えるように努力している。	日々の関わりの中で、おやつ等の時間や入浴介助時の会話等で思いや意向を把握している。困難な場合は表情の変化や涙を流す等の感情の変化、言動、奇声の出現時など、今までの生活歴に基づき本人本位に検討し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に話を聞き、これまでの生活習慣や趣味などを配慮した生活が継続できるように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人をよく観察し、個々に必要な支援を検討し、提供できるように努力している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望や意向を基に主治医やスタッフの意見、日々の記録やミーティングからの情報を参考にモニタリングを行い、現状にあった介護計画を立てるように努めている。	本人・家族の意向や要望、主治医の意見や職員からの支援日誌等からアセスメントし、身体機能や趣味を活かした介護計画を作成している。モニタリングは毎月行い、6ヶ月で見直し、状況変化時はその都度見直し、現状にあった介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の支援誌を作り、日々の様子を記録し、スタッフが共有出来る様にしている、朝、夕の申し送りを行い変化時にも迅速な対応が出来る様に取り組んでいる。状態変化が見られた場合は計画書の見直しも随時行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関と医療連携ができており、状況に応じて往診や訪問看護が利用できる。リハビリの充実化も図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生員や地域の方々の協力を貰い地域の行事を見学するなど社会とのつながりを持てるように努力している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を優先し、階下の協力医療機関がかかりつけ医となっている。他科受診は基本家族に同行して頂くが状況が困難な時はスタッフが同行できるように努めている。	本人や家族に希望を確認し、協力医療機関がかかりつけ医となっている。月2回職員同伴で受診し、週1回医療機関の看護師の訪問で健康管理し、24時間医療連携体制が整っている。必要時歯科の往診、皮膚科など他科受診は家族の協力を得て支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常日頃から情報交換を行い、いつでも連携が取れる体制になっている。定期的な受診と訪問看護もあり、24時間対応できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には主治医より紹介状を書いてもらい、情報提供を行っている。日々の状態や支援などは介護情報提供書を作成し医療機関に情報提供している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化の対応、終末期の在り方については、施設の方針や体制の説明を行っている。本人と家族の意向や希望を踏まえ主治医やスタッフと常に連携を図り、可能な限り対処できるように努めている。	「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」があり、契約時に説明し同意書を貰っている。重度化した場合は段階的に主治医の説明が有り、家族の意向を確認し、家族が選択できるよう情報提供し、希望で他医療機関への転院もある。看取り実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成している。応急手当、初期対応などは研修などで訓練を重ね慌てず対処できるように努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防署の協力の下、避難訓練を実施している。マニュアルを作成し法人全体のスタッフが速やかに対応できるように努めている</p>	<p>マニュアルがあり、法人全体で年2回、昼夜間想定で消防署の指導のもと通報・避難誘導訓練・消火訓練を実施し、総評指導を受けている。防災設備は業者が定期点検している。備蓄は水・米・缶詰・レトルト食品を3日分とカセットコンロを厨房に準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>個々の人格を尊重し、思いやりを忘れず、不愉快な気持ちにならないように気を配り対応している。</p>	<p>マニュアルがあり年2回勉強会や研修会を実施している。言葉遣いはミーティングで意見交換し、トイレ誘導や入浴時は羞恥心に配慮し、音量に留意した声掛けの工夫やタオルを掛ける等、個々に応じて対応している。呼称は苗字で声かけし自分で選択できる支援をしている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>利用者の希望を傾聴し、思いを伝えやすい声掛けを心掛け、自己決定できるように努めている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な日課はあるが個々の状態で柔軟に対応している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>着たい衣服を選んだり、スキンケアをするなど本人が満足できるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ自力摂取が出来るように声掛けを行っている。自力摂取できる方々には挨拶をしてもらったり、行事では一緒にお菓子を作ったりしている。	献立は医療法人の栄養士が利用者の嗜好を考慮し作成している。ホームは主食を準備し嚥下機能に応じて普通食や刻み・ミキサー食で提供している。行事食や誕生日にはケーキでお祝いしている。利用者はおしぼりの準備や食前の挨拶の音頭・食後は下膳・台拭きを個々の力量に応じて職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の下、栄養バランスや水分量の確認を行い、個々の状況に応じた対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。歯ブラシ、口腔スポンジ、口腔シートなどを使用し本人の口腔状態に合わせてケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄状況やパターンを把握して、トイレ誘導を行い、日中はトイレを利用し、出来るだけおむつの使用を減らし自立に向けた取り組みをしている。	日中のトイレ排泄を目標に、排泄チェック表でそれぞれの排泄パターンを把握し、個々人の時間帯で音量に留意し声かけトイレ誘導している。自立している利用者は見守り支援している。排泄用品は紙おむつ、リハビリパンツ等、個別に応じて対応し、自立に向けた支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と水分補給をしっかりと行い予防しているが、どうしても排便が見られなかったり、本人からの訴えがあった時は主治医に相談し、薬を処方してもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は定めてはいるが、入浴、清拭、手浴、足浴などのケアの方法を使い分け、利用者の希望に沿った柔軟な対応をしている。拒否などがあった時は曜日を変更したり、休んだり無理をしないケアを心掛けている。	週3回の入浴支援で時間帯は利用者の特性や希望に応じて浴槽での入浴やシャワー浴の支援をしている。いやがる場合は職員交代や曜日を変更し無理強いせず、陰部ケアや足浴・全身清拭等の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンの把握に努めつつ、本人の希望を第一にケアにあたっている。午睡、TV鑑賞、自室で自由時間など個々のペースで自由に過ごせるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は個々の薬の内容を処方箋で把握し、薬の目的や副作用等についても理解できるように努めている。状態変化がある場合は主治医に報告を行い職員間にて情報共有するよう徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月毎にあった季節の壁紙を一緒に作成し、行事等も計画を立て行っている。一人一人に沿ったレクリエーションも考え少しずつ出来るように支援している。外出が難しい分、ホールで野菜づくりをしたり、DVDをかけたり、気分転換になる工夫をしている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	家族の協力を頂き食事に行かれたり、近くを散歩されるなど気軽に外出出来るように支援している。年間計画も立てている。コロナ禍にあり、現在は外出が難しく連携医療機関にあるリハビリ室を利用して歩行訓練などを行っている。	年間計画は作成しているがコロナ禍で外出支援を自粛している。4階にあるホームの窓からの外気浴や日光浴・近隣小学校の子供達の遊びを眺めたり声を聞き、元気をもらっている。母体医療機関のリハビリ室で歩行訓練等をしたり、ホーム内で楽しめるレクリエーションを工夫し、ストレス解消に繋がるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理のできる方がおられないので個々の所持金はない。お金の出し入れの感覚を忘れないように、喫茶店などを開き感覚が味わえるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があれば家族、友人、知人に電話をかける支援をしている。毎年、年賀状と暑中見舞いを書いて家族に送り喜ばれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が出るように壁紙を張り、落ち着いて過ごせるように観葉植物を置き、出来るだけ広く使用できるように工夫している。環境は温度調節、換気などを行い清潔感のある空間を心掛けている。	玄関には利用者の習字の作品を掲示し、ホールは広く換気や採光に配慮し温湿度計やエアコンで過ごしやすい環境を心がけている。テレビやソファ・テーブル・椅子が有り、壁には利用者の作品や季節の壁紙を飾っている。和室にはカレンダーもあり個々人がゆっくりと過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の座席は気の合う方々と一緒に過ごせて、TVが好きな人は見やすい場所で、作業するときには協力しあえるように状況に応じて工夫して対応している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族と本人と相談し、落ち着いて過ごせるように、馴染みなものを置き心地よく過ごせるように支援している	居室はエアコン・ベッド・クローゼットを設置し寝具類は家族と協力して調整している。馴染みの机やラジオ・CDラジカセ・孫や家族の写真を飾り、新聞や好きな本を読んで居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、玄関、廊下、ホールなど安全に過ごせるように環境整備をしている。矢印をつけるなど分かりやすい工夫をしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない